

第6回館山わかしおトライアスロン大会 救護アンケート調査結果(2015年) 【Web掲載用】

トライアスロン大会における、
傷病に関連する要因の検討
—スイムを中心に—

調査の概要

- タテトラでは、大会救護・安全の向上のため、参加者の皆様にアンケート調査にご協力いただいています。
- 2014年は、大会当日の傷病・リタイアに関連する要因について調査を行いました。
- その結果、OWS(オープンウォータースイム)の経験が、大会当日の傷病・リタイアと関連がある可能性が示唆されました。
- 2015年は、スイムに関連した内容に関する調査を追加して検討を行いました。

日本水泳連盟OWS検定基準

※日本水泳連盟ホームページの掲載内容より、概要を抜粋

	基礎泳力	方向確認	立ち泳ぎ	OWS技術	出場距離目安
5級	10分	平泳ぎ	1分	背浮きとヘルプサイン	1km以下
4級	15分	平泳ぎ	3分	背浮きとヘルプサイン	1.5km以下
3級	30分	平泳ぎ・顔上げクロール	3分	顔上げ平泳ぎ 25m	3km以下
2級	1500m 30分以内	平泳ぎ・顔上げクロール	5分	上記全て	5km以下
1級	1500m 22分30秒以内	平泳ぎ・顔上げクロール	5分	上記すべて +α	10km以下

スイムの距離は、スプリントが5級、スタンダードが4級に相当
泳力の評価の参考として、これらの項目を利用

調査結果（抜粋）

前日アンケートで、トライアスロンやOWSの経験等について回答
（OWS検定については、アンケートの回答により等級を満たすかどうかを判定）
当日スイムで発生した、「リタイアを要した」または「当日受診を要した」事例のリスク因子を調査
傷病発生は7名（海水吸引4名、過呼吸1名、筋けいれん1名、溺水心肺停止1名）

傷病発生者の方が、OWS経験が少ない

	傷病発生	傷病なし	検定
年間トライアスロン回数	0.83回／年	2.6回／年	P<0.05
OWS歴	1.25年	4.45年	P<0.05
年間OWS大会回数	0.5回／年	2.59回／年	P<0.05
今回初めてのOWS大会	傷病発生の相対リスク13.61		P<0.05
OWS検定が等級内	傷病発生の相対リスク0.2		P<0.05

傷病発生者の方が、OWS検定が等級内の人が多い

参加者の泳力について

アンケートでOWS検定基準の項目を聴取。

スプリントは5級、スタンダードは4級の項目を満たす方を「等級内」、満たさない方を「等級外」とした。

	等級内	等級外
傷病発生者	2人	5人
傷病なし	512人	254人
全体	514人(66%)	259人(34%)

傷病発生者とスプリントは、
等級外の人の方が割合が多い

	4級相当	5級相当	等級に 相当しない	合計
スプリント	53人 (40%)	14人 (11%)	64人 (49%)	131人
スタンダード	410人 (62%)	37人 (6%)	215人 (32%)	662人
合計	463人 (58%)	51人 (6%)	279人 (35%)	793人

参加者の3人に1人
は等級に相当しない

※あくまでアンケート調査であり、実際の泳力を確認しているわけではありません

ウェットスーツ使用年数

(人)



一般的な耐用年数とされる3年以内の方が4人中3人。
使用頻度や材質の問題もあり一概には言えないが、ウェットスーツの劣化による競技への悪影響は懸念され、十分に点検をして利用することが望ましい。

まとめ

- スイムでの傷病発生のリスクとして、OWS経験が少ないこと、泳力が不足していることが関連している可能性があります。
- 泳力が十分でない状態で、大会に参加する方がいらっしやるようです。準備・練習を十分をお願いします。
- ウェットスーツは耐用年数を考慮し、十分な点検・交換をお願いします。